

部品 用品 整備

最新動向

テクノレーダー

12

次世代車高調整式サスペンション

油圧車高調整機構を併用し室内から自由に車高をコントロール

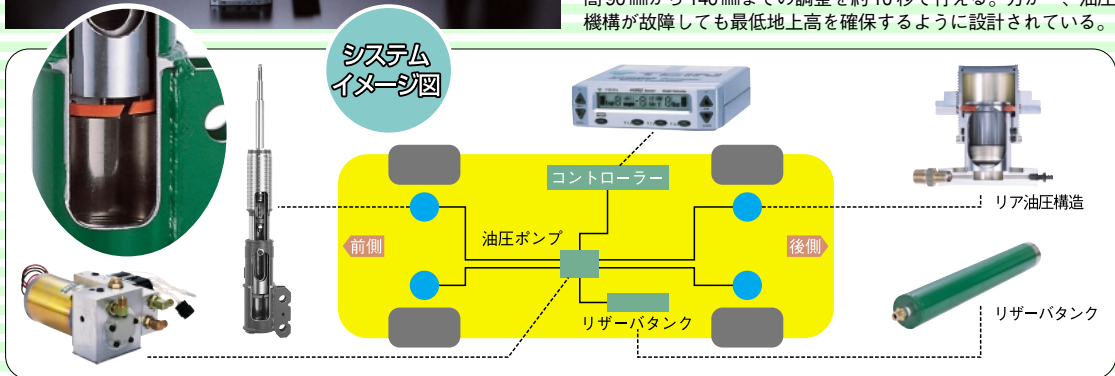


UP

DOWN



室内に装備したコントローラーからボタンひとつで好みの車高に調整できる。緩衝装置と油圧車高調整機構は独立しており、最低地上高90mmから140mmまでの調整を約10秒で行える。万が一、油圧機構が故障しても最低地上高を確保するように設計されている。



市販スポーツパーツにも電子化の波

近年、スポーツパーツに「電子化」の波が到来している。スポーツ系電子パーツといえば以前は「エンジンコントロールユニット」が代表格であったが、以前に本コーナーでも取り上げたマフラーをはじめ、サスペンションといった機能部品にも電子装置を組合せてワンランク上の次元を目指すスポーツパーツが登場している。

近年「車高調整式サスペンション」は峠道やサーキットでスポーティな走りを楽しむマニア層ばかりでなく、ドレスアップ重視のカスタムユーザーからも人気を集めており、そうしたユーザー特有のニーズは「乗り心地」や「車高調整作業のし易さ」などに集中する傾向にあるという。

本項で紹介するのは後者のニーズに対応したもので、「緩衝装置」と「油圧車高調整機構」を独立させることにより、どのような車高でも緩衝装置としての機能を犠牲にすることなく、クルマを走らせる場所に応じてスピーディに車高の調整が行える点を大きな特徴としている。

システムのイメージは上記のような構成で、室内に装備したコントローラーの信号に応じて油圧ポンプが作動し、発生した圧力をダンパーに設けた油圧室へ送ることで車高を調整している。

開発したメーカーでは、同商品の販売・取付けに関する技術講習を受講した認定ショップに限定している。作業的にかなり高いレベルが要求されそうだが、見方を変えればプロの技術を持つ整備工場にふさわしいチャンスとも受け取れる。